

北部方面音楽隊員帰郷広報@昭和音楽大学

自衛隊神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長辻2陸尉）は、令和3年12月23日（木）昭和音楽大学（川崎市麻生区）において陸上自衛隊北部方面音楽隊（北海道札幌市）に所属する佐藤陸士長による帰郷広報を支援した。

近年、音楽大学からの志願者数は増加傾向にあり、音楽隊を希望する学生には演奏技量を生かすことができる就職先の一つとして大人気である。学生の就職活動の一助になればと、昭和音楽大学キャリアセンターと担当教授の協力を得て実現した。

新型コロナウイルス禍では希少となった対面形式でOB隊員から直接アドバイスをもたらすとあり、集まった12名の学生達は先輩の話を熱心に聞いていた。終始アットホームな雰囲気の中でも活発な質疑応答が行われ、特に佐藤士長が就職活動中の失敗談や学生時代の思い出を披露すると笑いが起こった。

溝の口募集案内所は「SNS等の利用により募集広報は飛躍的に伸びてはいるものの、募集の現場では自衛隊のイメージについて温度差を感じることが少なくない。今後も、現役隊員が母校で学生達に直接語ることで、自衛隊をより身近に感じてもらう帰郷広報の支援を続けていく」としている。

溝の口募集案内所は「SNS等の利用により募集広報は飛躍的に伸びてはいるものの、募集の現場では自衛隊のイメージについて温度差を感じることが少なくない。今後も、現役隊員が母校で学生達に直接語ることで、自衛隊をより身近に感じてもらう帰郷広報の支援を続けていく」としている。



左上 佐藤陸士長

高工校入校者が母校訪問で学校をPR

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長内山1空尉）は、1月7日（金）陸上自衛隊高等工科学校へ入校した中村生徒の母校である横浜市立茅ヶ崎中学校（横浜市都筑区）への訪問に同行した。

今回の母校訪問は、高等工科学校へ入校した生徒が自衛隊の活動内容を母校の教員や後輩に伝え、自衛隊に対する関心及び理解を深めることを目的としており、中村生徒の年末年始休暇を利用し実現した。

母校訪問当日は、受験から担当している日下部広報官と都筑区担当の高坂広報官が同行した。久しぶりに日下部広報官と再会した中村生徒は、身長が伸び制服姿が凛々しく見えた。

中村生徒は令和3年4月に高等工科学校へ入校し9カ月が経過。入校の動機は、父親が自衛隊に興味を持っており、色々話を聞くうちに陸上自衛隊への興味が湧いたことだった。

茅ヶ崎中学校へと到着すると、進路指導主任の牛島晋司教諭が笑顔で出迎えてくれた。会議室に通されると、中村生徒は自ら用意してきた高等工科学校の資料を広げて、高等工科学校での生活や環境、勉強している内容について緊張しながらも活き活きと説明を行なった。牛島教諭から「高等工科学校での生活は充実していますか」「特有の授業はありますか」等の質問を受けると、ハキハキとした口調で回答をしていた。「中学時代の中村君のイメージと違って驚きました」と言われると、中村生徒は照れくさそうな表情を浮かべた。中学生時代の懐かしい話になると中村生徒からも笑顔が見られ、緊張がほぐれたようだった。

市ヶ尾募集案内所は、「高工校入校者との良好な関係により、中学校の母校訪問と進路指導教諭への説明が実現した。今後も自衛隊へ興味を持って貰う機会を追究し、学校教育や保護者を含めた説明を進め自衛隊への理解促進を図っていきたい」としている。



自ら作成した資料で説明する中村生徒（奥）



真剣に聞き入る牛島進路指導主任（右）